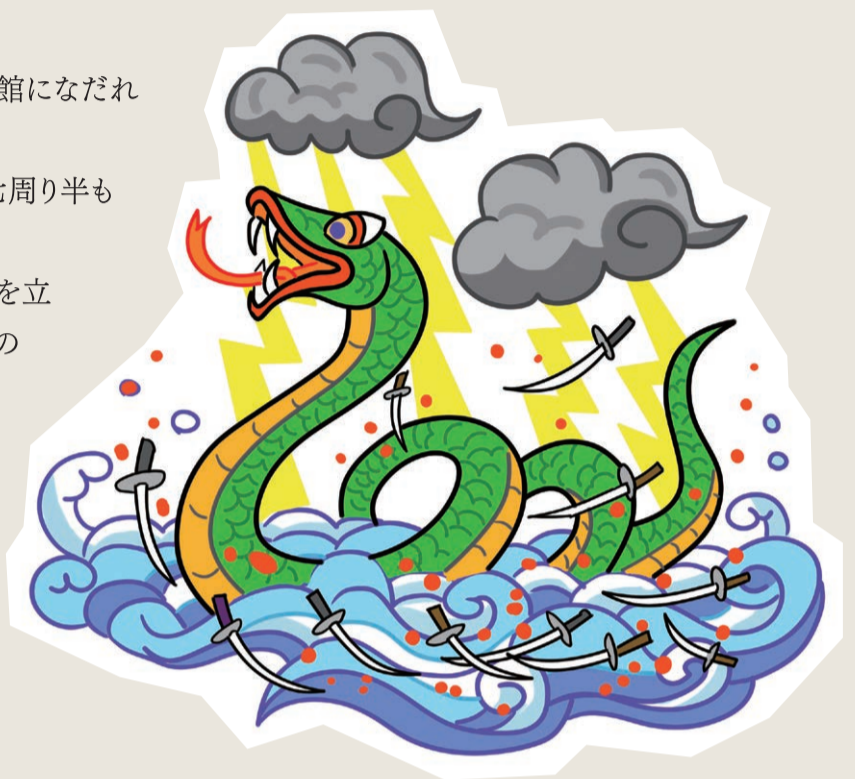


再発見 ふるさと風土記 上新城の伝説 シリーズ

⑥「阿彦沼の巨大な大蛇」

14世紀の頃、浦の城主は三浦氏を名乗っていたが、鎌倉近江守盛実の末裔だという。この城主に阿彦館攻め(阿彦館の正室は、浦の愛娘だった)の下知があり、軍勢が潮のごとく阿彦館になだれ込んだ。がしかし、城柵を目の当たりにして寄せ手の軍勢は、氷のように立ちすくみ動けない。館の麓の阿彦沼には、いつの頃からか巨大な大蛇が住み着いていた。大蛇は館の周りを巻くと七周り半もあって、昼夜たがわず館を守っていた。浦の軍勢が迫ると、大蛇は双の眼を炎のごとく見開き、酒樽のような朱の下腹を波打たせ、地響きを立てて威嚇した。寄せ手は全員、冷や水を浴びたかのように悪寒が走り、あまりの恐ろしさに気絶するものたちが続出した。浦の軍勢は悔しがり一計を案ずる。兵士は各々腰の太刀を一振りずつ差出し、千本の刀をかき集め、大蛇が命とも頼む阿彦の沼に投げ込んだ。黒鉄の毒気は、たちまち沼を汚濁した。逆巻く黒雲が館の上空をすっぽりと覆い、風は風を呼んで吹き荒れ、稲妻が走る。大地は雷鳴に砕け、沼は深底からひっくり返るように煮えたぎった。そうした怒涛の中で、大蛇は七日七晩に渡ってのたうちまわった。やがて、一条の薄ら日が洩れ出した頃、稀代の大蛇はもはやピクリとも動かなかった。浦の軍勢は歓呼し、野を焼いて空を焦がし、阿彦館は炎上した。

郷土史研究家 永田 賢之助



上新城のペット物語



vol.6

おしとやかで、ちょっとスリムなママが大好き女の子、

11歳の女の子「りんちゃん」。生後2・3か月の頃に、ペットショップで息子さんと出会い家族になりました。カニンヘンダックスできれいな薄茶色。細面のスリムなボディで、朝晩家の周りを元気に駆けまわります。人が大好きで、初めて会う人でも尻尾フリフリごあいさつします。でも、散歩で見かける猫ちゃんがちょっと苦手。ついつい吠えたり追いかけたりしてしまいます。パパの帰宅を今か今かと待っていて、車が家の前に着く前に、ワンワン声の合図でスタンバイOKです。日課となっているパパのおやつタイムがやって来ました。待ってました〜!必ずくれる「いつものササミ」に大満足のりんちゃんです。でも、おやつをいただくとパパは用済み。やはりママが一番大好き〜!と駆け寄っていきます。夕方の散歩はママと一緒に。そして、夜はいつもママと一緒に眠ります。「今日も一日ありがとう...」。

りんちゃんのパパとママは、三浦善樹さん・久子さん(下五十丁町内)

私のメモリー

我家の宝

私がこの上新城へ嫁いできたのは1960年頃です。上新城中学校の校歌の一節に「遠山」とありますが、白山方面の遠山は、右に大平山、左は駒頭の山並みで、季節毎の美しい景色に心奪われたことをよく覚えています。思い出といえたくさんありますが、ある時五十丁に住んでいた方から、秋田フキの苗を2、3本いただいたことがありました。それを夫と一緒に自宅の脇の畑へ植えると、ぐんぐんと大きな秋田フキが育っていきました。そのフキでよく砂糖菓子をつくって家族に食べさせ、楽しいひと時を過ごしていたことを思い出します。我家にはその秋田フキを刻した手づくりの硯もあります。夫が「退職後の時間を有効に生かし、子どもや孫に、形のあるしかも誰もやっていない自分の形見を残したい」とつくりはじめたものです。古文書や人からの情報を頼りに、北秋田市森吉町の山奥へ入り、すべて自己流でコツコツ削り続けていました。その後、秋田県職場総合美術展、秋田県美術展覧会で入選したり奨励賞をいただいたりした硯たちは今もガラスケースに入れてあります。畑のフキは年老いて小さくなってしまいましたが、硯を時々見つめては昔を思い出しながら、我家の宝として引き継ぎたいと思うのです。

保多野町内 三浦 安子





Aug. 5

さとぴあ講座レポート

## 東京から中学生が来館！藍染め体験講座

東京都荒川区の中学生の皆さんが体験講座に参加するためにさとぴあに来館。2・3年生あわせて20名と、引率の校長先生ほか担当の先生2名が「藍染め」に挑戦しました！

講師の鈴木美保子先生（「工房ぬくもり」主宰）からはご挨拶と藍染めの魅力についてお話があり、藍染で表現できる模様につけ方について様々な方法が紹介されました。皆さん初めての体験という緊張感もあり、真剣に先生の説明を聞いていました。



自分のやりたい絞り柄に必要な道具（輪ゴム、割りばし、ガラス玉、ボトルのキャップ、洗濯ばさみ、ビニール紐等）を選びます。選んだ道具を手に「仕上がりが想像できない…」と少し戸惑いながらも笑顔で生地（バンダナの布）に絞りの細作業を進めました。



30分くらいかけて絞りの細工を完成させると、次は外に移動して染色の行程です。生地を水に浸け、まんべんなく浸透させた後、よく水気を切ってから、藍の染料液に投入し染色します。10分程で生地を染料液から引き上げ、しっかりと水気を絞り、生地を広げて空気にさらして待つと、酸化発色で徐々に藍色に染まってきました。



すっかり藍色になったら、水道水で余分な染料を洗い流します。洗った後は水気を絞り、5分ほど酢酸に浸けて「色留め」をしました。

いよいよ、絞りの細工をした道具をほどきます。生地を広げ、綺麗に染めあがった作品に歓声と笑顔があふれ、お互いに「すてき!」「いいね!」と喜びあいました。

最後に風にさらして空気酸化させ、染料の定着を促して完成です。藍は時間が経つにつれて色素が繊維の中に入り込み、色が丈夫になり独特の深みを増します。

夏の秋田で、みんなと作ったオリジナル作品。素敵な思い出の品として、これからの皆さんの生活を彩ることでしょ。



## 渡辺芳勝/風の時代の絵画展



ヨーロッパを写生しながら描いた作品や心象風景的な作品、約30点を展示します。風のように爽やかに生きていきたいという作者の願いをこめて。

日時 令和5年 9月22日(金)～10月15日(日) 10:00～18:00

場所 さとぴあ 玄関ホール

自由観覧

## 陶芸サークル 七窯土 ななかまど 作陶展



陶芸サークル「七窯土」が始まって22年。松陰窯、須恵沢窯での窯焚きや、薪割り粘土掘りなど、作陶の貴重な体験として蓄積してきました。会員もだんだん高齢化してきましたが、「元気で楽しく」をモットーに皆頑張っています。

日時 令和5年 9月17日(日)まで 10:00～18:00

場所 さとぴあ 玄関ホール

自由観覧

第一部 ステージイベント各種  
第二部 上新城音頭  
(17時30分) など



第一回  
ふるさと  
応援まつり  
in 上新城

(祝) 秋分の日 雨天決行

9月23日(土)

場所 / みんなの実家・門脇家

入場無料 秋田県秋田市上新城中字片野 TEL.090-2660-2000

## 9月の講座一覧

9/6 水

日本奥地紀行 vol.2  
「羽州街道を歩いたイザベラ・バード」

9/7 木

毛糸の草木染めプロジェクト  
第4回「毛糸を紡ぐ」

9/8 金

出羽国の対蝦夷政策最前線  
払田柵跡

9/10 日

フライパンでつくる、  
旬の野菜の米粉パン

9/17 日

イチジクの甘露煮と  
甘露煮を使ったケーキづくり

9/18 月

りんごの収穫体験と  
りんごの和菓子作り

9/23 土

森のストリングス・オブさとぴあ

「上新城さとぴあだより・ふるさとと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。  
次号の配布は、11月9日・10日の予定です。

